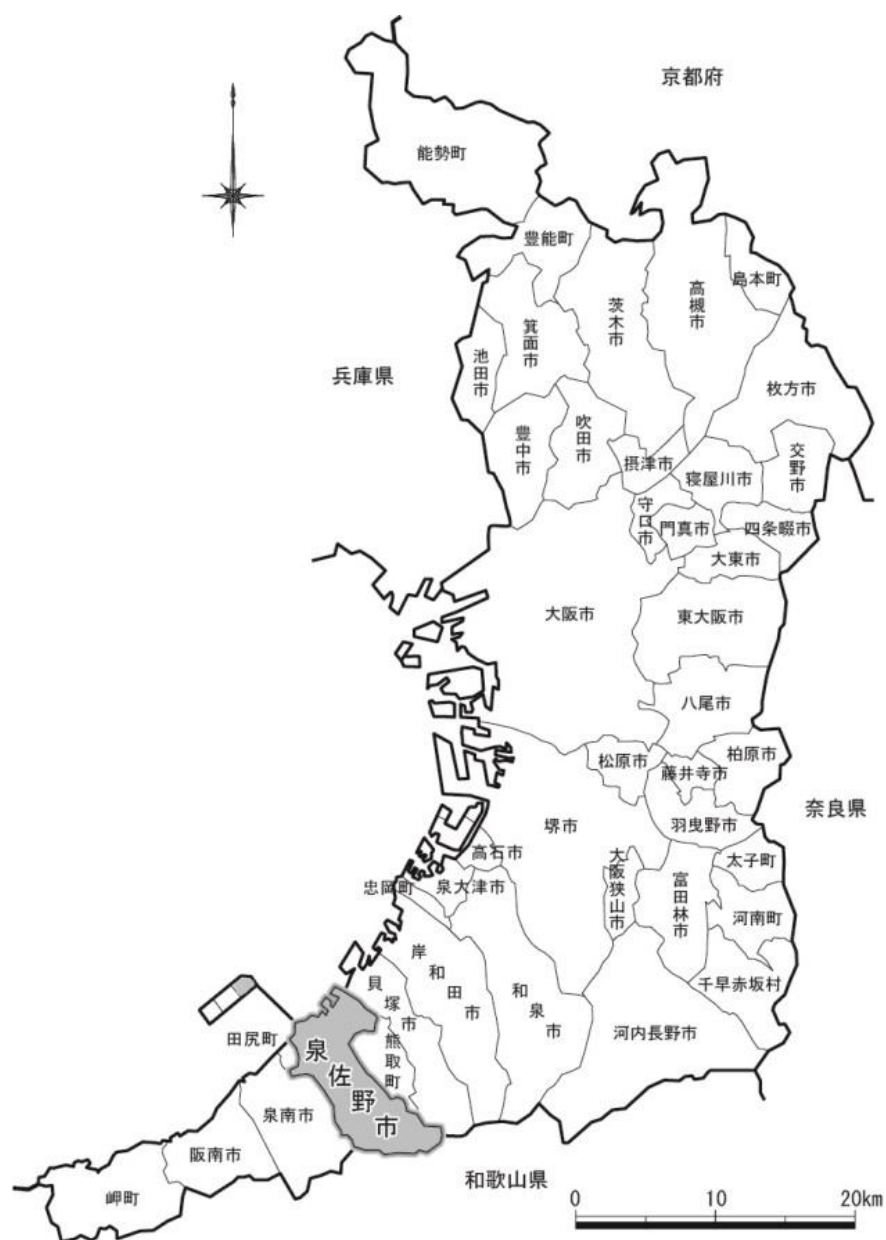


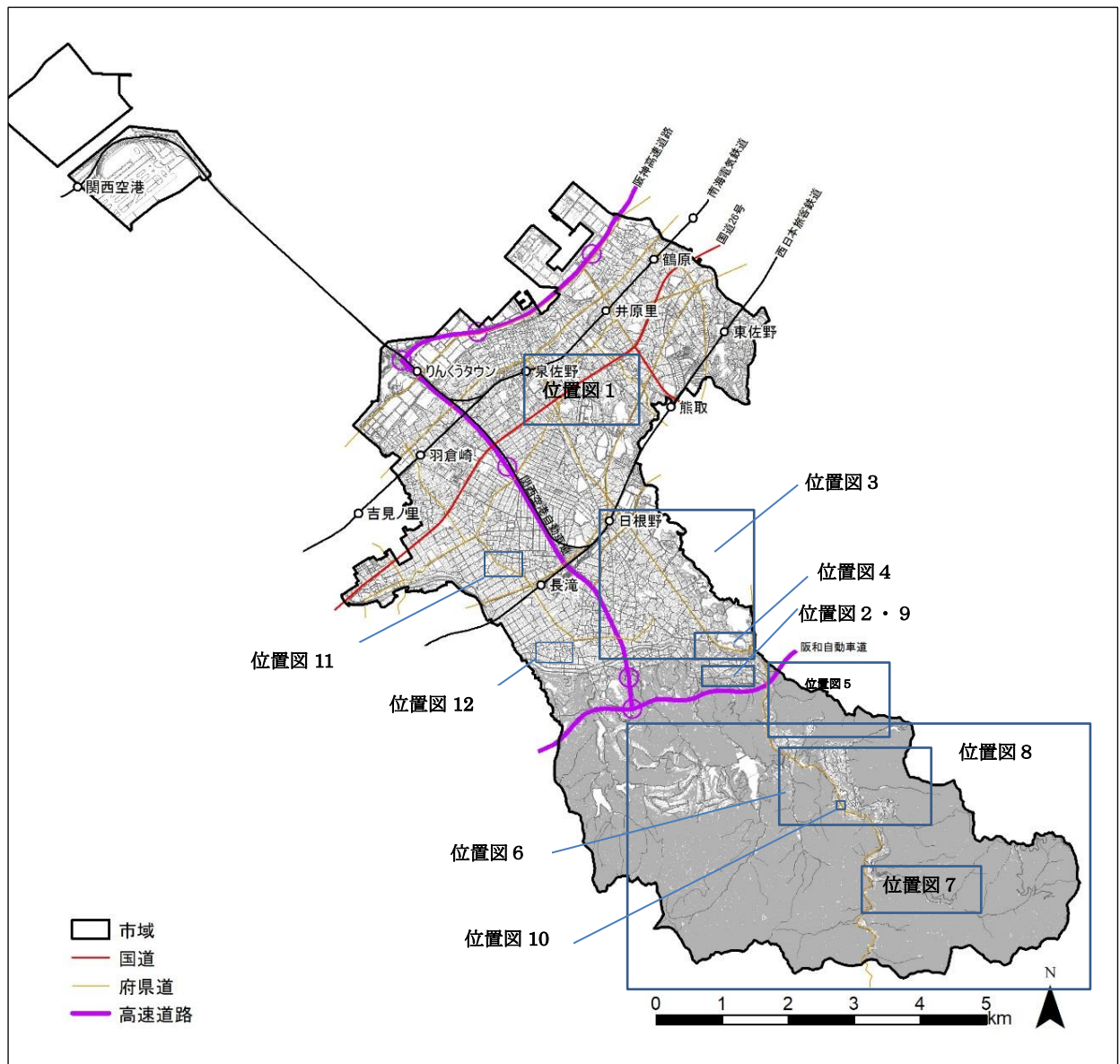
① 申請者	泉佐野市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	たびひきつけとにまいのえずがつたえるまち—ちゅうせいひねのしょうのふうけい—		
旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
今から 800 年前、泉佐野市は上級貴族、九条家の領地「日根荘^{ひねのしょう}」でした。ここには二枚の荘園絵図と九条政基が書いた「旅引付」という日記が残されています。絵図には緑豊かな風景に、田畑に恵の水を注ぐため池や水路、社寺などが描かれ、日記には 500 年前の村の生活や人々の様子がいきいきと記されています。荘園の地を創り、中世から受け継がれてきた現在のこの風景は、絵図や日記に描かれた魅力ある農村景観へと誘ってくれるのです。			

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す
（様式 3 - 1 の番号に対応させること）



構成文化財の位置図

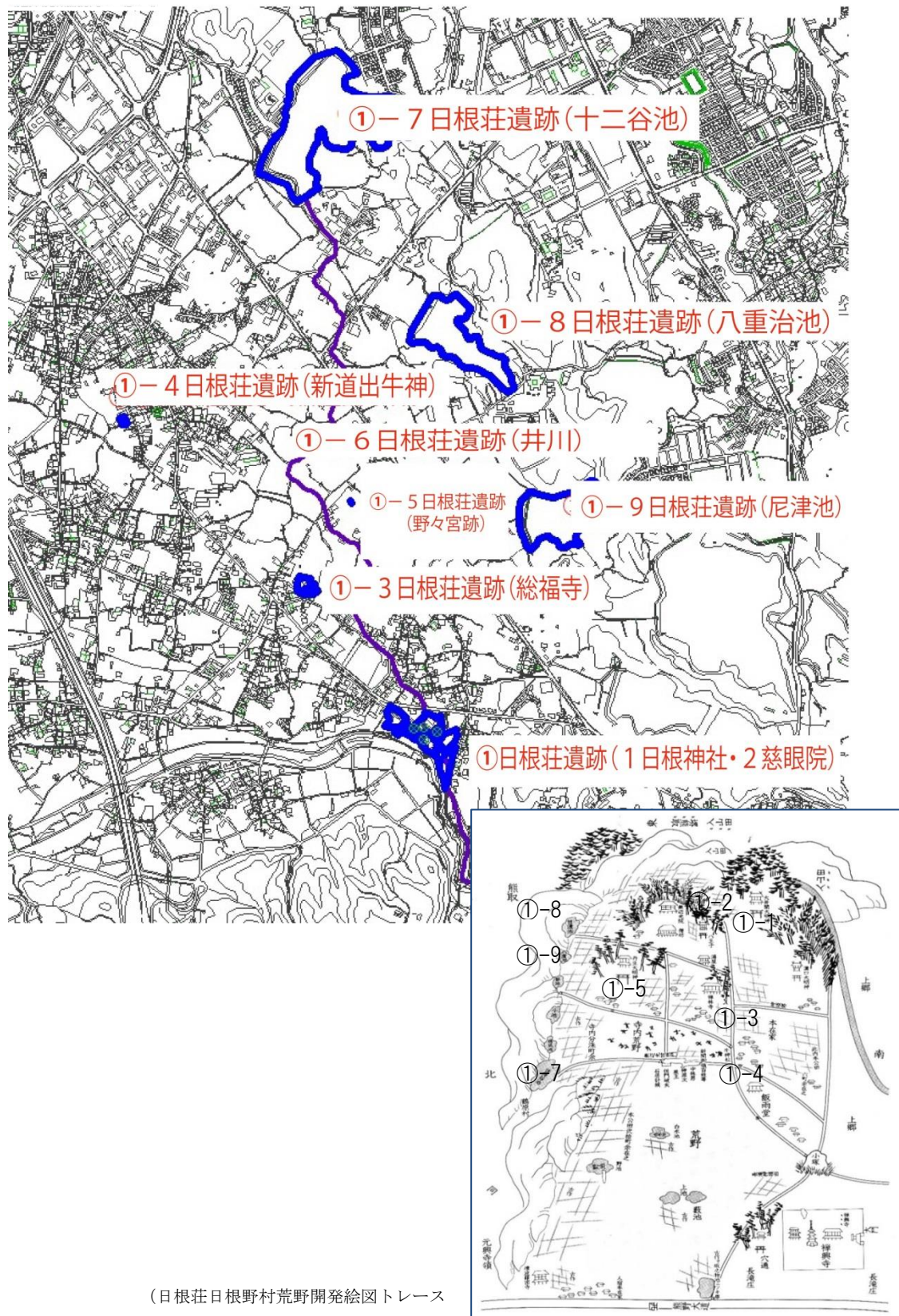
位置図 1



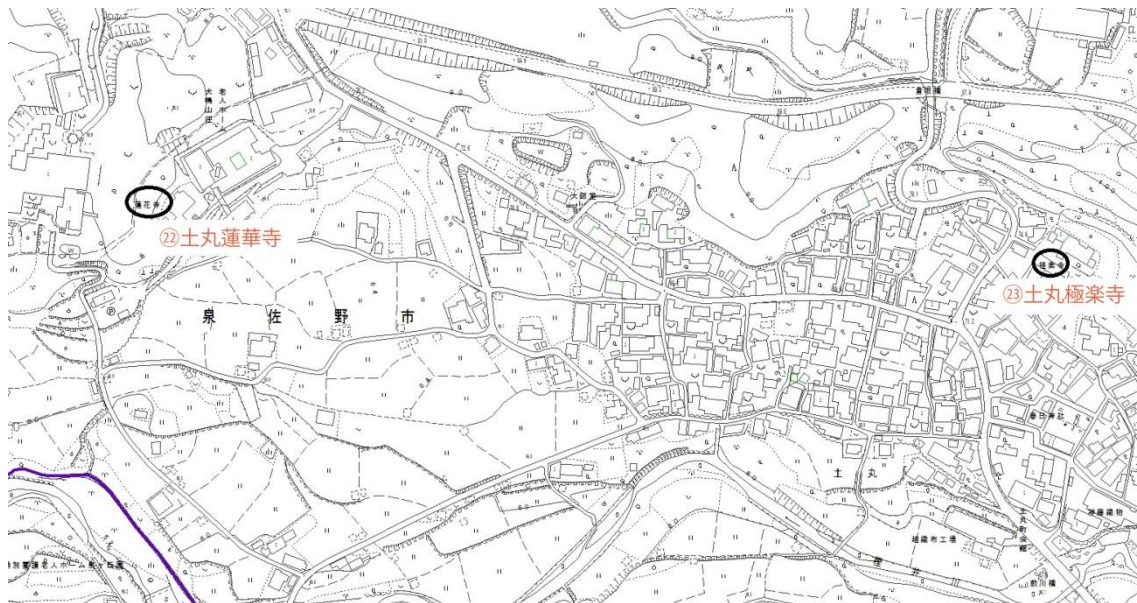
位置図 2



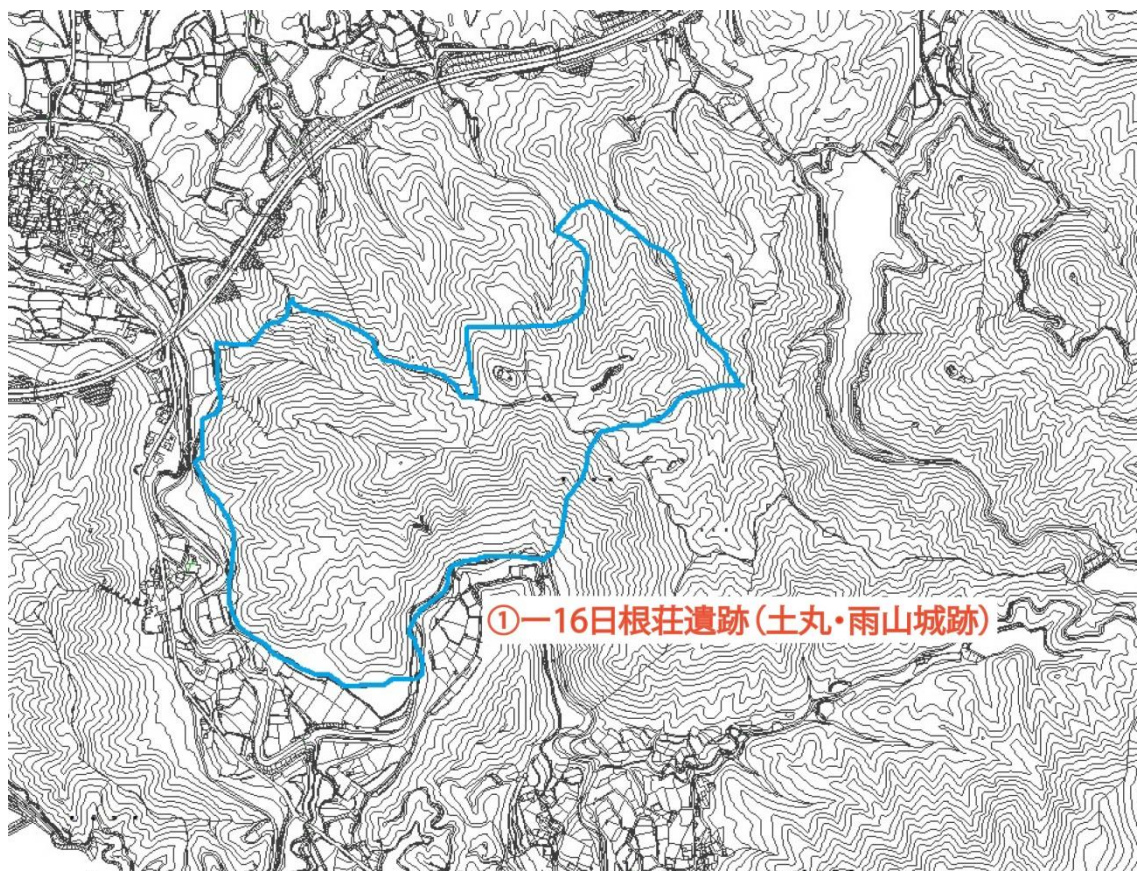
位置図 3



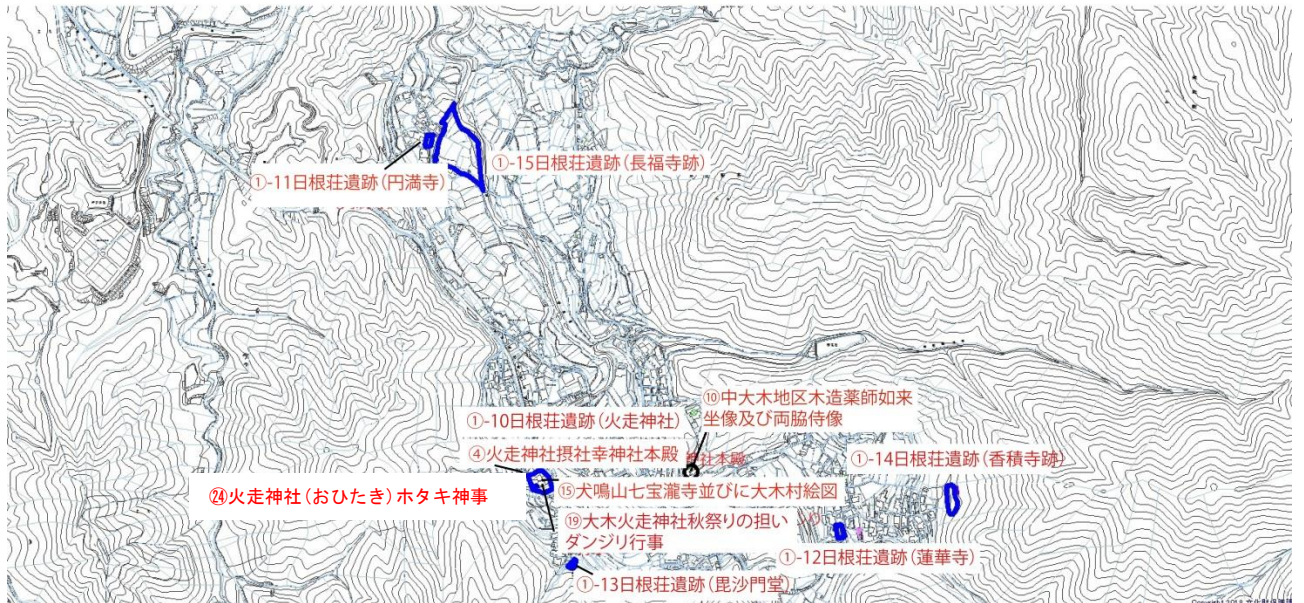
位置図 4



位置図 5



位置図 6

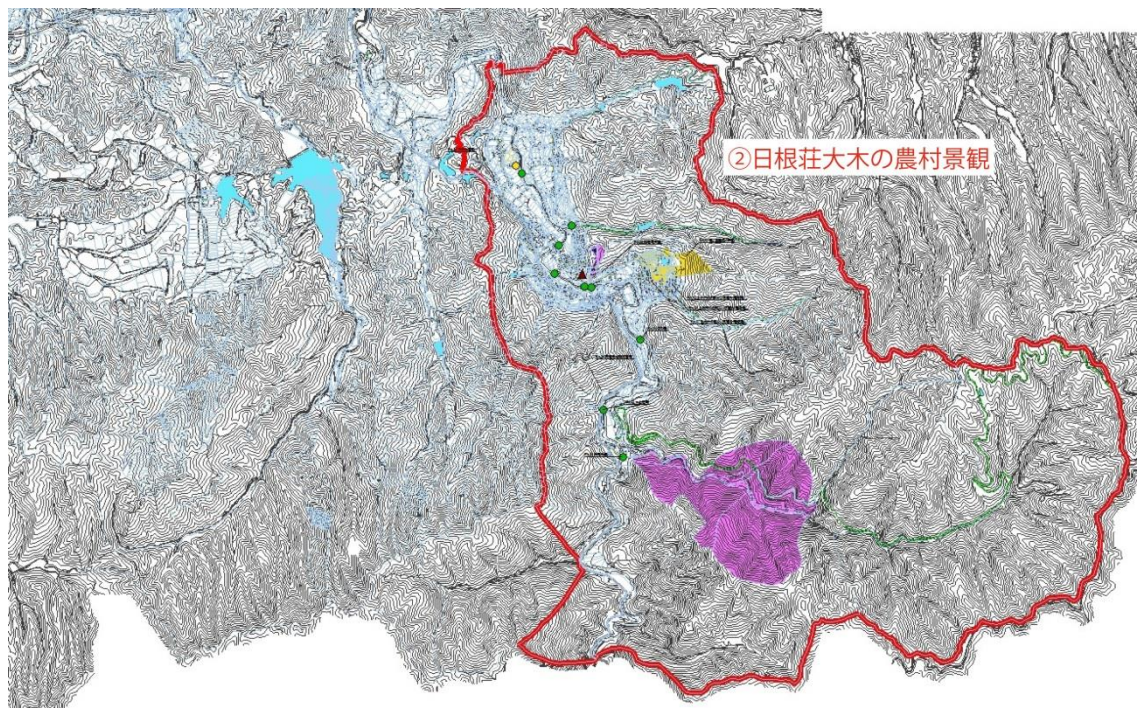


(犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図)

位置図 7



位置図 8



位置図 9



位置図 10



位置図 11



位置図 12



ストーリー

日本の玄関口、関西国際空港のある泉佐野市には、約 800 年前、摂政や関白になった上級貴族である五摂家（近衛家・九条家・鷹司家・二条家・一条家）の 1 つ、九条家の治める「日根荘」とよばれる荘園があり、その範囲は現在の市域すべてに及んでいました。また、16 世紀初めに記された九条政基の日記、「政基公旅引付（ひきつけ）」に描かれる世界は、大木地区の荘園時代以来の農村景観として今も息づき、訪れる人を魅了します。現地に生きる人びとの営みが絶えることなく進化し、維持されてきたこの魅力ある懐かしい風景は、どのようにして作られてきたのでしょうか。その答えの 1 つが、日根野地区を開発するために描かれた鎌倉時代の二枚の絵図に隠されています。

◆二枚の荘園絵図

1234 年、日根荘が成立します。経営の一番の難題は、広大な未開地の開発でした。1309 年、九条家は日根荘の土地調査に着手しますが、その際に作成された二枚の絵図にはきわめて克明に村の水路やため池、寺社などが描かれています。それらは驚くほど現存するものと一致します。

開発の主要プロジェクトが井川水路の整備でした。井川は日根神社と慈眼院の間を通り、段丘面に広がる農地を抜けながら、十二谷池まで続く全長約 2.75 km を高度差わずか約 3m で流れるように作られました。その緻密で大がかりな土木工事からは、村人たちの血のにじむような努力が伝わってきます。

当時作られたため池も、今なお田畑に恵の水を注ぎ、人々に実りを与えてくれます。大開発によって発展を遂げた日根荘は、九条家の所有する全国約 30 カ所の荘園の中で自らが開発した重要な荘園へと成長します。

では、当時の生活はどのようなものだったのでしょうか。

◆貴族の日記―「政基公旅引付」―

時は戦国時代。武士によって荘園経営が危うくなり始めたころ、領主である九条政基は、入山田村、当時の大木地区にあった長福寺に 1501 年から 4 年間滞在しました。

この 4 年間の様子や出来事を政基は日記につづっています。

「梅は花 松はみどりの 春の日の めぐみぞ四方に 天満る神」 政基公旅引付

梅が花開き、松が緑を色濃くする春の日の恵が四方のいたるところに満ちているのは、天満天神のおかげです。

滞在中、政基は貴族らしく連歌などを催しましたが、荘園の春色を尊ぶこの歌からは、当時の天神信仰が伺えます。総福寺に天満宮の小さなお社がたたずんでいます。

「風情といい、いう詞といい、都の能者に恥ぢず」

早ばつに悩まされる大木の村人たちは、滝宮（火走神社）で雨乞いの儀式を行いました。雨喜の風流



大木地区の農村景観



二枚の絵図



農地を潤す井川水路



で奉納された能は、姿かたちといい、言葉の言い回しといい、都の能に恥じないものだ」と政基は称賛しました。火走神社の雨乞いでも雨が降らない時は、犬鳴山七宝瀧寺で神事を行いました。

今も神社では収穫感謝の神事がおひたき(ホタキ神事)として行われています。

古来より修験道の聖地として七宝瀧寺が鎮座する犬鳴山。山号の名は大蛇から主人の命を守った義犬伝説に由来し、大阪府内では珍しく温泉郷があります。



おひたき(ホタキ神事)

「舞の手共、當道なほ勝劣あるべからざるものなり」

入山田村の人びとの舞の所作も都の役者と優劣つけがたいほどのものと政基は褒めたたえています。

大井関大明神(日根神社)では毎年4月2日に例祭が行われていました。そこで行われた芸能も政基はめずらしいといいます。

井川をはさんで隣接する慈眼院には日本三名塔のひとつである多宝塔が、750年の間変わることなく優雅に佇んでいます。政基は慈眼院に滞在することもありました。

今は地域の集会所になっている大木の円満寺では、外からの軍勢の襲来を、早鐘を鳴らし村中に伝えました。

資料をもとに歴史をたどると、荘園に生きた人々の軌跡が見えてきます。また、現存する当時の建造物や遺跡は今もなお、中世の面影を残し、受け継がれています。このように日根荘は、当時の支配や村人の生活、信仰の様相や開発のあり方を具体的に示してくれるとともに、中世の村の姿を追体験できる全国でも希少な荘園の1つです。



慈眼院 多宝塔



土丸・雨山城跡

◆中世の息吹

中世から芸能に優れていた火走神社や日根神社での伝統的な祭りには、今も多くの人々が集まり、賑わいをみせています。ハイキングコースとして親しまれている土丸・雨山城跡は、戦乱の跡をかき消すように、木漏れ日がやさしく照らし、訪れる登山者を迎えてくれます。この山頂からは、海上に浮かぶ国際空港をバックに中世の農村景観が一面に望むことができ、その意外性がトレkker達の人気スポットとなっています。

室町時代、全国で12ヶ所に減少した九条家荘園の中でも、日根荘は重要でありつづけました。土丸・雨山城跡の頂から望む現在の日根荘。この景色は地域の営みの中で日々変化を続けながらも、荘園の礎がしっかりと守られ続けているのです。それは、この地を創り、受け継いできた人々の息づかいなのだとすることを、訪れる人びとに語りかけてくれます。



まくらまつり(日根神社)



土丸城跡から望む日根荘

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※ 1)	指定等の状 況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財 の所在 地 (※ 4)
①	ひねのしょういせき 日根 荘 遺跡 (16 ケ所)	国史跡	地域の営みの中で日々変化を続けながらも荘園の礎を守り伝えられる中世からの建造物や景色が今に残る。	
②	ひねのしょうおおぎ のうそんけいかん 日根 荘 大木の農村景観	重要文化的 景観	地域の気候風土に合わせて中世から受け継がれてきた土地利用の在り方が魅了された景観を保持している。	
③	いぬなきさん 犬鳴山	府名勝	古来より葛城修験道の聖地とそこに息づく神事の継承	
④	ひばしりじんじゃせつしやみゆきじんじゃほんでん 火走神社摂社 幸 神社本殿	重要文化財 (建造物)	日根荘入山田村の総社である火走神社の摂社で、室町後期に造営された社殿が今も継承されている。	
⑤	じ げんいん たほうとう 慈眼院 多宝塔	国宝 (建造物)	鎌倉時代建立。日根神社の神宮寺としての古い姿を残す。	
⑥	じ げんいん こんどう 慈眼院 金堂	重要文化財 (建造物)	日根荘政所と思われる。鎌倉時代建立。日根神社の神宮寺としての古い姿を残す。	
⑦	そうふくじちんじゆてんまんぐうほんでん 総福寺鎮守天満宮本殿	重要文化財 (建造物)	久ノ木にある総福寺の境内社。本堂は天正 4 年 (1576) に建立。旅引付に記される天神信仰が現在の天満宮でも信仰されている。	
⑧	ひ ね じんじゃまつしや ひ め じんじゃほんでん 日根神社末社比売神社本殿	大阪府指定 (建造物)	溝口大明神とも呼ばれ、農業用水の恵みを願う信仰が日根荘時代より続く。後に日根神社に合祀。	
⑨	じ げんいんだいにちによらいざぞう 慈眼院大日如来坐像	大阪府指定 (彫刻)	平安時代末期、貴族の美意識にかなった彫刻様式である藤原流の系統をもつ優美な彫刻。	
⑩	なかおおぎちくもくぞうやくしによらいざぞうおよび 中大木地区木造薬師如来坐像及 りょうわきじぞう 両脇侍像	大阪府指定 (彫刻)	平安時代末期、貴族の美意識にかなった彫刻様式である藤原流の系統をもつ優美な彫刻。西光寺は七宝瀧寺の元末寺。薬師講が今も継承されている。	
⑪	しっぽうりゅうじどうばち 七宝瀧寺銅鉢	大阪府指定 (工芸)	弘安 2 年 (1279) の銘が彫られる鋳銅製、蓋付きの鉢である。法華会の仏具と思われる。	

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑫	しつぽうりゅうじけんぼんちゃくしよく 七宝瀧寺絹本著色 ふどうみょうおうにどうじしじゅうはちししやず 不動明王二童子四十八使者図	大阪府指定 (絵画)	四十八使者図を伴う不動明王を描く絵画で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑬	しつぽうりゅうじけんぼんちゃくしよく 七宝瀧寺絹本著色 そんしょうまんだらず 尊勝曼荼羅図	泉佐野市指定 (絵画)	金剛界大日如来を中央に、周囲に八大仏頂を配した尊勝曼荼羅図で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑭	しつぽうりゅうじけんぼんちゃくしよく 七宝瀧寺絹本著色 ふどうみょうおうはちだいでうじず 不動明王八大童子図	泉佐野市指定 (絵画)	両肘を曲げて持物をとる不動明王を中心に、左右に俱利伽羅龍剣と八大童子を描く図様で、日根荘に由来し、南北朝期の葛城修験の世界を伝える。	
⑮	いぬなきさんしつぽうりゅうじなら 犬鳴山七宝瀧寺並びに おおぎむらえず 大木村絵図	泉佐野市指定 (歴史資料)	七宝瀧寺とふもとの集落の風景と取り囲む山や川などの自然景観が現在の魅力ある歴史的な情景と重なる。	
⑯	じげんいんもくぞうむねふだ 慈眼院木造棟札	泉佐野市指定 (歴史資料)	日根神社の神宮寺で、長い年月をかけて大切に維持され続け、慈眼院や日根神社の沿革を知るうえで貴重な歴史資料。	
⑰	みなといせきしゆつどえぼし 湊遺跡出土烏帽子	泉佐野市指定 (考古資料)	当時の成人男性がかぶった布製の実物。室町時代の木棺とともに出土した。	
⑱	じげんいんきょう 慈眼院こけら経	泉佐野市指定 (有形民俗文化財)	奉納される長さ 30cm、幅 1cm の杉板片を円筒状に束ねたこけら経は鎌倉時代の民衆信仰を今に伝える。	
⑲	おおぎひばしりじんじやあきまつり 大木火走神社秋祭りの になだんじりぎょうじ 担いダンジリ行事	泉佐野市指定 (無形民俗文化財)	泉州地域のだんじり祭の中で最も古い形態を残す伝統的な祭り。大木の生業である山師の力強い雰囲気を受け継ぐ地域色豊かな行事。	
⑳	ひねじんじや 日根神社まくらまつり	泉佐野市指定 (無形民俗文化財)	旅引付に記された春の祭礼がその起源と推定されており、行われる芸能等に感銘を受けたと記されている。	

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
②①	いぬなきさんしっぽうりゅうじ 犬鳴山七宝瀧寺	未指定 (建造物)	山号は大蛇から主の命を守った義犬伝説に由来し、灯明ヶ岳には経塚がある。現在まで葛城修験信仰を伝える場所。	
②②	つちまるれんげじ れんげじ 土丸蓮花寺 (蓮華寺)	未指定 (建造物)	真言宗犬鳴派。旅引付に記され、土丸城主で活躍した南朝方の橋本正督の墓石などがあり、土丸集落の歴史を語る。	
②③	つちまるごくらくじ 土丸極楽寺	未指定 (建造物)	真言宗御室派。九条家文書に記され、修正会、法華八講などが行われ、中世以来の民衆信仰の世界。	
②④	ひばしりじんじや 火走神社おひたき (ホタキ神事)	未指定 (無形民俗文化財)	天からの恵みの雨は生業である農業には欠かせないもの。旅引付に記される収穫感謝、厄除けを祈願する神事が現在も継承され続けている。	
②⑤	ひねじんじやほんでん 日根神社本殿	大阪府指定 (建造物)	旅引付に記され、二枚の荘園絵図にも描かれている日根荘の鎮守社。中世は井川用水を司る神社として「大井関神社」と呼ばれた。日根荘の中心的な神社。	
②⑥	ひばしりじんじやほんでん 火走神社本殿	泉佐野市指定 (建造物)	日根荘入山田村の総社で、中世には瀧宮と呼ばれる。旅引付には入山田村の風流念仏や雨乞い等が火走神社で行われたと記されており、日根荘入山田村の中心的な神社。	
②⑦	ありとおしじんじや 蟻通神社	登録文化財 (建造物)	二枚の荘園絵図に「穴通神社」として描かれており、熊野詣や紀貫之の故事が伝わる長滝村の総社。古くから舞殿で能が行われ、今に継承されている。	
②⑧	いずみのくにひねのしょうひねのむら 和泉国日根 荘 日根野村 こうやかいはつえず 荒野開発絵図	未指定 (歴史資料)	正和 5 年(1316)に作成された九条家領日根野村を描いた絵図。ストーリーの根幹をなし、緑豊かな風景に、社寺等が記されている。	

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
②⑨	いずみのくにひねのしょうひねのむら 和泉国日根 荘 日根野村・ いはらむらこうやかいはつえ ず 井原村荒野開発絵図	未指定 (歴史資料)	延慶3年(1310)ごろに作成された九条家領日根野村・井原村を描いた絵図。ストーリーの根幹をなし、緑豊かな風景に、社寺等が記されている。	
③⑩	まさもとこうたびひきつけ 政基公旅引付	未指定 (古文書)	戦国時代、日根荘の領主であった九条政基が長福寺に4年間滞在していた時に記した日記。村の生活や人びとの様子がいきいきと記されている。	
③⑪	ちぬのみやあと 茅渚宮跡	未指定 (史跡)	古代の和歌の神様である衣通姫の故事が伝わる。かつては比売神社が衣通姫を祭神としていた。九条家文書にも登場し、日根荘との関りが深い	

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

①史跡日根荘遺跡（16ヶ所）



1. 日根神社



2. 慈眼院（写真奥⑤多宝塔・写真手前⑥金堂）



3. 総福寺（⑦総福寺天満宮本殿）



4. 新道出牛神



5. 野々宮跡



6. 井川



7. 十二谷池



8. 八重治池



9. 尼津池



10. 火走神社



11. 円満寺



12. 蓮華寺



13. 毘沙門堂



14. 香積寺跡



15. 長福寺跡



16. 土丸・雨山城跡

②日根荘大木の農村景観



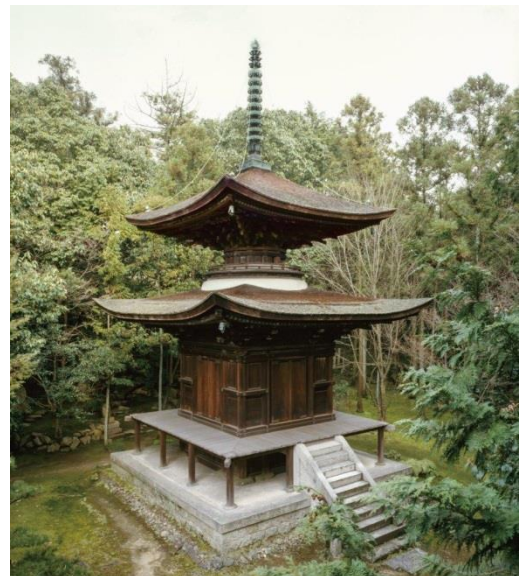
③犬鳴山（府名勝）



④火走神社摂社幸神社本殿



⑤慈眼院多宝塔



⑥慈眼院金堂



⑦総福寺鎮守天満宮本殿



⑧日根神社末社比売神社本殿



⑨慈眼院大日如来坐像



⑩中大木地区木造薬師如来坐像及両脇侍像



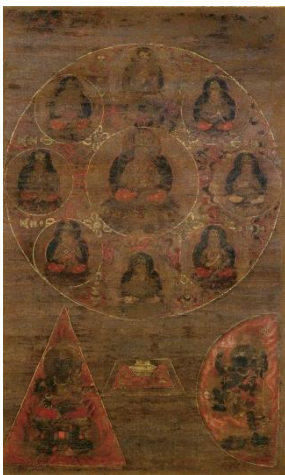
⑪七宝瀧寺銅鉢



⑫七宝瀧寺絹本着色不動明王二童子四十八使者図



⑬七宝瀧寺絹本着色尊勝曼荼羅図



⑭七宝瀧寺絹本着色不動明王八大童子図



⑮犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図



⑩慈眼院木造棟札



⑪湊遺跡出土烏帽子



⑬慈眼院こけら経



⑰大木火走神社秋祭りの担いダンジリ行事



⑳日根神社まくらまつり



㉑犬鳴山七宝瀧寺



②土丸蓮華寺



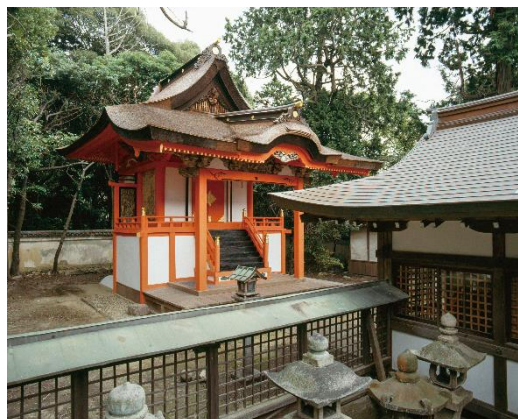
③土丸極楽寺



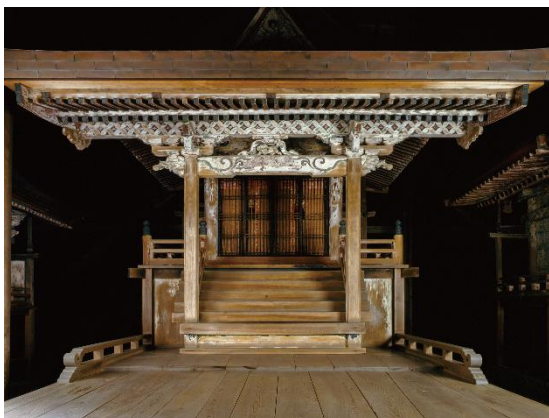
④火走神社おひたき(ホタキ神事)



⑤日根神社本殿



⑥火走神社本殿



⑦蟻通神社



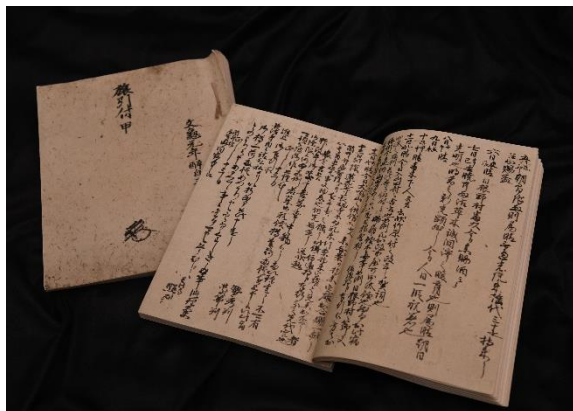
㊸和泉国日根荘日根野村荒野開発絵図



㊹和泉国日根荘日根野村・井原村荒野開発絵図



㊺政基公旅引付



㊻茅渚宮跡



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

泉佐野市内には、日根荘の時代(1234年～1500年代)に起源をもつ国宝・重要文化財をはじめとした文化遺産が数多く残されている。その他、ため池や水路など中世からの水利施設が今も現役で活躍し、九条家荘園として発展してきた歴史性が強い田畑や集落なども日本の原風景ともいえる農村景観としてみる事ができる。また、地域に伝わる縁ある伝統行事や祭礼などの無形文化財も、人びとの暮らしの中で大切に守られ、受け継がれている。

現在、日根荘に対する市民の関心度も高く、総合計画をもって施策を実施することを予定している。これを軸に日根荘遺跡を構成する様々な文化財そのものに焦点をあてた施策を実行することで、さらなる遺跡の保存活用面を発展させていくことを考えている。

日根荘は泉佐野市の貴重な文化遺産であると同時に、日本の農村文化の原点とも言え、世界に誇れる地域ブランドである。しかし、こうした歴史的に重要な裏付けのある農村景観が、国内外のみならず、いまだ大阪府内でも認識が十分とはいえない。

この日本遺産のストーリーを通じて、日根荘の歴史的・文化的な魅力を国内外に発信し、地域資源としてとらえ、地域が担ってきた伝統行事や文化資源の保護といったまちづくり活動を広く展開していく。また、地域外の人たちにもそこに積極的に参加してもらい、文化遺産としての意識の共有を図りながら、観光振興・地域活性化につなげる取り組みを展開していく。さらに、関西国際空港の玄関都市にある立地条件を活かし、日本文化の魅力を伝えると同時に、市民の郷土愛と誇りをと一層高めながら、保存・継承への意欲を引きだしていく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

(取組概要)

1. 国内外からの受入環境の整備及び情報発信
 - ① 関西国際空港、鉄道主要駅、市内公共施設等での総合案内板の設置
 関西国際空港を利用する旅行者に対する活かした取り組みとして、りんくうタウン及びJR日根野駅、南海泉佐野駅周辺の宿泊観光施設や公共施設等に日根荘遺跡の周遊アプリ (AR/VR) の開発、GISマップの作成や案内板の設置を行う。
 - ② 泉佐野市HP、広報誌での周知及び情報公開
 既存の日根荘啓発資料 (プロモーションポスター・ちらし・パンフレット・ルートマップ・プロモーション映像) の増刷及び新規作成や泉佐野市及び協議会関係機関等のホームページ制作、更新を行う。
 - ③ 関西空港や観光施設における定期的な在住外国人や観光ガイド等によるインターネット交流サイトへの情報発信
 - ④ ストーリー全体を理解できる施設として、平成8年に荘園博物館として開館した「歴史館いずみさの」を日本遺産のガイダンスセンターとして、電子案内板や音声ガイド、模型、パネル等により、訪問者の受入環境を整備する。
 - ⑤ 普及行事会場での参加者への意向アンケート調査の実施し、今後の日本遺産のPR効果の示し方の指針を出していく。
2. 日本遺産認定地の公開及び周遊ルートの整備
 - ⑥ 市内各所 (構成文化財所在地) での案内板、解説版、誘導サイン等、トイレ、便益施設の設置と整備
 来訪者が心地よいと感じられる空間づくりを目指す。
 - ⑦ 構成文化財の周遊散策 (登山道・遊歩道) ルートの設定及び整備
 滞在時間 (半日～1日) を設定したルート設定を行う。
 - ⑧ 日根荘の風景を見下ろす眺望点の設置
 日根荘を見下ろす眺望点の設定をし、その眺望点をつなぐルートを設定する。
 - ⑨ 日本遺産のPR支援団体 (案内ガイド等) の育成
 協議会構成員や市民によるガイド養成を行い、地域密着型の誘導を行う。
 - ⑩ 日本遺産PRプロモーション活動の実施
 パネル展・現地見学会・講演会・全国の荘園遺跡及び文化的景観選定地との連携事業、荘園サミット等継続的な活動
 - ⑪ 小学校副読本における日本遺産の掲載や学童への現地見学会の実施
 歴史遺産を利用し、子供達に地域の歴史や文化に対する情操力を高めていくことを目指します。
 - ⑫ 構成文化財所有者、地元住民、来訪者への啓発のためのワークショップ
 現在の日根荘鳥瞰図を作成することで、身近にある泉佐野市内の各種文化財の価値を再確認する機会とする。
 - ⑬ 各構成文化財については、施設の修繕や周辺環境・案内板等の整備の他、ストーリー上の重要拠点を中心に観光スポット、体験ポイントとしての活用や整備を進める。

(3) 自立的・継続的な取組

日本遺産認定後は、日本遺産魅力推進補助事業を活用して、情報発信や普及啓発、受入環境整備などの基盤整備を重点的に実施し、日根荘が日本遺産に認定されたことを広く認識・理解し、全国への誇りであることを認識してもらうことに努める。3年間の国の補助金終了後、自立的運営に必要な収入確保を検討し取り組むことで経済的基盤づくりを行い、日根荘推進協議会が持続的、安定的に運営していくことが可能となるように努める。例えば、クラウドファンディングによる調達資金や、協議会HPにおける広告収入、ツアーガイド収入を協議会の運営に充てることなどを検討する。そのために年次計画的な自主財源収益額の確保について、以下の取組を推進し、その後協議会の取組みに賛同する機関・団体・企業・個人などに広く参画あるいは協力を呼びかけ、協議会の構成メンバーや運営形態などについてより良い姿への見直しを随時行う。

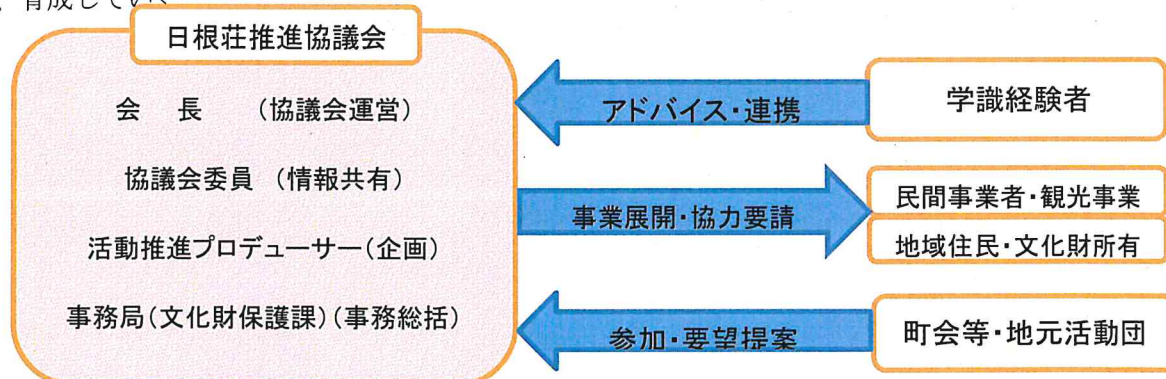
1. 地域リーダーを育成し、自主的及び継続的な組織体制を構築する。
2. ツアーガイドを育成し、収益事業となるようにつなげる。
3. 日本遺産魅力発信事業における商品開発可能性調査で、ツアーなどの内容がテーマやその他の取組とマッチングした内容であるかなどを調査して、具体的に収益可能な方法であるかを検討する。
4. 検討結果を受けて、商品やツアーパッケージ等の開発を行う。構成文化財等の保護やイベント等に対するクラウドファンディング等を実施する。

(4) 実施体制

協議会の名称：（仮称）日根荘推進協議会

構成メンバー：泉佐野市関係機関（政策推進課・まちの活性課・農林水産課・行財政管理課・都市計画課）
 泉佐野市観光ボランティア協会・大井環境整備ボランティアたもつ会
 大木まちづくり協議会・奥家住宅保存会・かやぶき民家保存会
 一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会
 NPO法人泉佐野にぎわい本舗
 森 夕里子（※プロデューサー）

※過去に泉佐野市歴史文化プロモーション実績のある者を協議会に配置し、取組みの運営を進めながら必要な人材を随時、育成していく



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：

期待される効果： 平成29年度、関西国際空港の利用旅客数は約2,880万人となり、その玄関口である泉佐野市にも訪日外国人をはじめとした数多くの旅行者が来訪している。このような来訪客に日本遺産の取組みを通じて、日本文化の原点ともいえる我が国独自の荘園文化や農村景観の魅力、そして荘園時代に形成された文化財などに焦点を当てることが可能となり、新たな観光資源の掘り起こしと活用につなげることができる。これにより、観光振興が図られ、地域の活性化につながるものである。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

補助金額：	平成31年度：	34,200千円	平成32年度：	32,300千円	平成33年度：	6,300千円
-------	---------	----------	---------	----------	---------	---------

(7) その他事業

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標：	観光客入込み数		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	関西空港利用者数				
目標値：	平成 29 年度	28,800,000 人	⇒	平成 35 年度	30,572,000 人
設定根拠：	平成27年度～平成28年度の伸び率0.5%に対し、平成29年度は同程度の伸び率、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比で1.0%の伸び率の達成を設定。				
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化				
計画評価指標：	日本遺産を活用した取組数（協議会による取組を除く）		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日根荘プロモーション事業等の開催				
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 35 年度	150 %
設定根拠：	平成30年度を基準とし、毎年度、対前年度比10%の伸び率の達成を設定。				
設定目標Ⅲ：	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標：	宿泊者数		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	泉佐野市内の宿泊者数				
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 35 年度	150 %
設定根拠：	平成30年度を基準とし、毎年度、対前年度比10%の伸び率の達成を設定。				

様式 4 (別紙②)

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①： 日本遺産の総合案内板等設置事業			
事業区分： 情報発信		事業期間： 平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額： 平成31年度： 10,000千円		平成32年度： 0千円	
(積算) (20基×500千円=10,000千円)		平成33年度： 0千円	
事業概要： 関西国際空港を利用する旅行者に対して、空港及び鉄道主要駅、宿泊観光施設等に日本遺産の周遊アプリを盛り込んだ日本遺産総合案内板の設置を行う。その際QRコードを入れてHP等との連動により説明可能なシステムを構築する。			
評価指標区分： コンテンツ制作数		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標： アプリ検案件数			
目標値： 平成 31 年度 0 回 ⇒ 平成 35 年度 10,000 回			
事業②： 日本遺産PRホームページ及び広報印刷物の制作及び掲示配布事業			
事業区分： 情報発信		事業期間： 平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
補助金額： 平成31年度： 4,000千円		平成32年度： 100千円	
(積算) 4,000千円×1式=100千円		平成33年度： 100千円	
		100千円×1回=100千円	
事業概要： 既存の日根荘遺跡の啓発資料に日本遺産情報を加え、海外からの来訪者向けの多言語資料のポスターや幟等の新規制作を行う。さらに、美しい自然景観の映像をベースとした日本遺産ホームページを制作するし、関西空港や観光機関へのリンクさせることによって幅広い誘客に努める。			
評価指標区分： コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標： HPアクセス件数・ポスター掲示枚数			
目標値： 平成 31 年度 0 PV ⇒ 平成 35 年度 10,000 PV			
事業③： 日本遺産センターの整備事業			
事業区分： 公開活用のための整備		事業期間： 平成 31 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額： 平成31年度： 15,000千円		平成32年度： 25,000千円	
(積算) 15,000千円×1式=15,000千円		平成33年度： 0千円	
		25,000千円×1式=25,000千円	
事業概要： 歴史館いずみさのを日本遺産のガイダンスセンターとして位置づけ、電子案内板や音声ガイド、荘園模型、写真パネル等により日本遺産の来訪者の受入環境を再整備する。			
評価指標区分： コンテンツ制作数		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標： 入館者数			
目標値： 平成 31 年度 10,734 人 ⇒ 平成 35 年度 20,000 人			
事業④： 日本遺産周遊ルート整備事業			
事業区分： 公開活用のための整備		事業期間： 平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
補助金額： 平成31年度： 0千円		平成32年度： 4,000千円	
(積算) 200千円×20基=4,000千円		平成33年度： 3,000千円	
		200千円×15基=3,000千円	
事業概要： 日本遺産のストーリー上の拠点箇所に案内解説板、誘導サイン、トイレ、便益施設等の設置と整備を行い、滞在時間(半日～1日)を設定したルートや景観の眺望点をつなぐルート設定を行う。さらに体験型観光スポットでの活用整備をあわせて行う。			
評価指標区分： 施設への入込み数		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標： 入館者数			
目標値： 平成 31 年度 0 人 ⇒ 平成 35 年度 10,000 人			

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業⑤： 日本遺産のPR支援団体や案内ガイドの育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 200千円	平成32年度： 200千円	平成33年度： 200千円
(積算)	(20回×10,000円=200千円)	(20回×10,000円=200千円)	(20回×10,000円=200千円)
事業概要：	協議会構成員や市民によるガイド養成講座を開催し、地域密着型の誘導を行えるような人材育成講座を開催する。		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	受講者数		
目標値：	平成 31 年度 0 人 ⇒ 平成 33 年度 100 人		
事業⑥： 日本遺産PRプロモーション活動・ワークショップ事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度： 1,000千円
(積算)	(5回×200,000円=1,000千円)	(5回×200,000円=1,000千円)	(5回×200,000円=1,000千円)
事業概要：	日本遺産パネル展、現地見学会、遺産講座等を開催し、参加者の増加を狙う。さらに、現在の日根荘鳥瞰図を作成するワークショップを開催し、所有者、地元住民の来訪者の受入側の日本遺産への意識を高め、郷土愛を育む。また、小学校学童への地域学習や歴史文化への情操力を高められるような副読本への日本遺産の掲載などを行う。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	活動参加者数		
目標値：	平成 31 年度 200 人 ⇒ 平成 35 年度 10,000 人		
事業⑦： 日本遺産日根荘展・荘園サミットの開催			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 2,000千円	平成33年度： 2,000千円
(積算)	500千円×2回=1,000千円	1,000千円×2回=2,000千円	1,000千円×2回=2,000千円
事業概要：	日本全国の中世荘園、歴史的農村景観を所有した自治体が一堂に会し、これまでの取り組みやその成果、今後の展望などを公開していくことで、日本の荘園遺跡PR活動の機運を高めるとともに観光振興やまちづくりへの強化を関連自治体との連携のもと実施していくことを目指す。初年度は地元及び周辺地域（大阪府市内）でプロモーションイベントを2回程度開催。2年目は荘園遺跡のある岩手県・群馬県・大分県及び関係者を招聘しサミットを開催。3年目はプロモーションイベントの合同展を首都圏（東京都）を中心に開催。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	来場者アンケートの日本遺産日根荘を認知できた割合の増加等		
目標値：	平成 31 年度 100 % ⇒ 平成 35 年度 180 %		
事業⑧： 日本遺産解説アプリ開発事業（AR）			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 0千円
(積算)	3,000千円×1式=3,000千円		
事業概要：	ARの技術により、スマートフォンのアプリを起動すると寺社や農村景観などが映る画面上にキャラクターが登場し、歴史や日本遺産について解説するアプリを作成する。		
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	アプリ検案件数		
目標値：	平成 31 年度 0 回 ⇒ 平成 35 年度 10,000 回		

(7) その他事業

事業①:	伝統文化親子教室事業		
機関・団体:	文化庁 : 市内各種団体	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	構成文化財である大木担いだんじりなどの保存と継承のために練習会への支援を行う。		
事業②:	泉佐野市有形文化財等補助事業		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	構成文化財である国・府・市指定文化財の保存と活用にかかる事業への支援を行う。		
事業③:	泉佐野市歴史文化基本構想策定及び文化財保存活用地域計画策定業務		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	関連文化財を含む市内各種文化資源を地域のまちづくりや活性化促進に位置づけ事業を展開する。		
事業④:	泉佐野市国際都市宣言と友好都市との交流		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	国際化に対応するまちづくりを推進し、モンゴル国、ウガンダ共和国、中国等の友好都市との交流を積極的に推進する。		
事業⑤:	泉佐野市国際交流推進事業		
機関・団体:	市町村 : 特定非営利活動法人 泉佐野地球交流協会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	特定非営利活動法人泉佐野地球交流協会 (ica) との協働により、世界の人々との交流を図る事業を展開する。		
事業⑥:	日根荘遺跡長福寺跡の収穫米を学校給食への提供		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	大木まちづくり協議会と協働して、史跡地の農空間屋外展示を行い、収穫した米を市内全小中学校の給食米として提供し、地域の歴史と地産地消学習に活かす事業を実施している。		
事業⑦:	歴史館いずみさの子供向け体験講座		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	子ども達に郷土愛を高め、地域の歴史を知る機会として、市内の子供たちに体験学習向けの事業を展開している。		
事業⑧:	日根荘大木の里コスモス園		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	大木まちづくり協議会と協働して、地域の美しい農村景観を守るために耕作放棄地の農地にコスモスを上、地区の文化的景観をPRしている。		
事業⑨:	歴史・文化交流事業		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	泉佐野市の歴史や文化に縁のある全国の都市に市民とともに訪問し、現地の視察及び人々との交流を図るツアーを開催する。		
事業⑩:	ボランティアによる里山保全活用		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	山間部の「いずみの森」の森林や近隣の里山保全のために集まった人々が自主的に里山整備に取り組む事業を展開している。		

様式 4 (別紙③)

(7) その他事業

事業⑪:	「泉佐野緑の少年団」活動		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	子ども達が自然とふれあい、緑を守るために小学生で構成された団体で、地域の緑化に貢献する活動を継続し、平成12年には内閣総理大臣賞を受賞している。		
事業⑫:	泉佐野産（もん）商品化プロジェクト		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	泉佐野での収穫された農産物等のブランド化と6次産業化を目指して様々な商品化を実現させている。		
事業⑬:	泉佐野市観光情報センターの運営		
機関・団体:	民間団体 : 泉佐野市観光ボランティア協会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	南海泉佐野駅にあり、市内観光案内やガイド受付、レンタサイクルなどの受付を行っている。		
事業⑭:	「大井関桜まつり」の開催		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市観光協会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	日根神社境内と一体をなす大井関公園や樫井川りじ溪谷に数千本植林された桜を装飾し、イベントを開催している。		
事業⑮:	りんくうタウン地域活性化総合特区		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	観光客訪日促進や国際交流拠点づくりを進め、地域の活性化を図ることを目的に平成23年度に指定を受け、国内外の人々が訪れ、交流する事業を展開している。		
事業⑯:	寿大学講座		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	60歳以上の市内在住者を対象に、市内の歴史遺産等の講座を年10回開催する。		
事業⑰:	2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業		
機関・団体:	自主事業 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	ウガンダ共和国等を相手国とするホストタウン登録に基づく交流促進事業を展開する。		
事業⑱:	青少年海外派遣事業		
機関・団体:	市町村 : 泉佐野市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	国際化を担う人材を育成するために、青少年をオーストラリアへ派遣し、文化交流と語学を推進します。		
事業⑲:			
機関・団体:	:	事業期間:	平成 年度 ~ 平成 年度
事業概要:			
事業⑳:			
機関・団体:	:	事業期間:	平成 年度 ~ 平成 年度
事業概要:			